

福祉たすけあい基金BOOK

19期・20期の助成団体紹介



19期贈呈式 2023/6/24@オルタナティブ生活館（オンライン併用）



公益財団法人

かながわ生き生き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目 次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は	3
福祉たすけあい基金とは	4～5
選考講評（第 19 期、第 20 期）	6

【第 19 期福祉たすけあい基金（第 7 期スタート助成）助成団体】

NPO 法人フードバンク浜っ子南（3 回目）	7
一般社団法人 みんなのレモネードの会（3 回目）	8
特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ	9
一般社団法人あそびの庭（2 回目）	10
Kids Fine	11
特定非営利活動法人ふじぼけ（2 回目）	12
一般社団法人トルコキキョウの会	13
びあっと	14
特定非営利活動法人居場所 そら（2 回目）	15
一般社団法人 Thoughtful Gift（2 回目）	16
葉山こどものための人材バンク	17
認定 NPO 法人フリースペースたまりば	18
一般社団法人ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボ（2 回目）	19
横浜市立大学 one by ONE（2 回目）	20
リンパ浮腫ネットワーク（3 回目）	21
Book&Art ニワシドリ（3 回目）	22
特定非営利活動法人霧が丘ぷらっとほ一む（2 回目）	23
一般社団法人かけはし（2 回目）	24
リトルハブホーム	25

【第 20 期福祉たすけあい基金助成団体】

チーム フランポネ	26
特定非営利活動法人神奈川フードバンク・プラス	27
ことさんち	28
湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会	29
横内子どもサポートネットワーク協議会	30
特定非営利活動法人鶴の仲間	31
一般社団法人神奈川県がん患者団体連合会	32
かながわりトルベビーサークル pena	33
あつぎ難聴者手話の会「虹」	34
NPO 法人まちラボ	35
特定非営利活動法人フードバンク横浜	36
特定非営利活動法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会	37
特定非営利活動法人ウィメンズハウス・花みずき	38
一般社団法人アマヤドリ	39
一般社団法人とえはたえ	40

財団を応援する「賛助会員」募集と「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い……41～42

公益財団法人 かながわ生き活き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971 年創立）は、90 年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくかのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990 年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998 年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は 2003 年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の 10 年間の助成活動の実践を経て、2013 年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き活き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

＜投資して利潤を稼ぐことが経済＞という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き活き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくかのお金などの社会資源を拠出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き活き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在 3 つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015 年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、意思ある生活クラブ組合員 1 万 1 千人の月 100 円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラムは寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

福祉たすけあい基金はこれからの地域社会をつくっていくために、市民自らが福祉活動の主体となっていくこと、そしてその基盤となる市民同士がたすけあう関係を育て、地域を豊かにしていくことをめざして生み出しました。かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものと言ってもよく、福祉たすけあい基金では高齢者、子ども、女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

福祉たすけあい基金の特徴 ～ 1万人1千人に支持される基金～

福祉たすけあい基金は市民一人ひとりから毎月（毎年）寄付を集め、おおぜいの力でまとまった額の基金を創りだしているのが特徴です。98%以上にあたる寄付が生活クラブ組合員約1万人1千人の毎月100円の寄付で寄せられています。これだけおおぜいの寄付者が趣旨に共感し、継続的に基金を支えていることは福祉たすけあい基金の最大の強みです。今後も顔の見える支持者をさらに広げつつ、基金のミッションを伝え地域に広げていかなければならないと考えています。

福祉たすけあい基金の助成事業

毎年2回助成を行います。1申請上限100万円の助成（通常型）と、比較的小さなアソシエーション等の活動の立ち上げや、活動初期の基盤づくりを応援する「スタート助成」をそれぞれ1回ずつ行っています。福祉たすけあい基金にはこれまで341団体から約1億4,750万円の申請があり、地域で福祉たすけあいの市民活動を行う232団体へ約7,260万円を助成しました。

第9期からは「スタート助成」を既存団体の新規事業立ち上げにも広げ、これによって既に地域で活動実績を持つ団体が、これまでの実践を通して見えてきた新たな地域課題の解決にも活用が広がっています。

福祉たすけあい基金 助成事業	福祉たすけあい基金 ～通常型～	福祉たすけあい基金 ～スタート助成～
		
助成総額	400 万円	500 万円
1件当たり上限	100 万円	40 万円





第1期～20期までの申請・助成実績

赤字部分はスタート助成

助成時期		助成団体数	助成金額（円）	申請団体数	申請金額（約万円）
第 1 期	2014 年 4 月助成	9	4, 514, 100	34	2400
第 2 期	2015 年 2 月助成	12	3, 944, 950	17	700
第 3 期	2015 年 5 月助成	11	3, 822, 000	20	1084
第 4 期	2015 年 8 月助成	13	3, 389, 131	20	1000
第 5 期	2016 年 3 月助成	6	1, 667, 633	12	390
第 6 期	2016 年 8 月助成	7	3, 245, 769	18	640
第 7 期	2017 年 3 月助成	10	2, 493, 230	16	490
第 8 期	2017 年 8 月助成	13	4, 000, 000	20	1000
第 9 期	2018 年 3 月助成	16	4, 346, 100	24	740
第 10 期	2018 年 8 月助成	11	3, 560, 382	19	859
第 11 期	2019 年 3 月助成	14	4, 440, 364	15	508
第 12 期	2019 年 8 月助成	11	3, 941, 072	13	611
第 13 期	2020 年 3 月助成	12	3, 266, 759	13	393
第 14 期	2020 年 11 月助成	8	3, 275, 903	10	544
第 15 期	2021 年 3 月助成	16	5, 000, 000	17	581
第 16 期	2021 年 8 月助成	11	3, 996, 881	11	461
第 17 期	2022 年 3 月助成	18	4, 998, 871	21	716
第 18 期	2022 年 9 月助成	17	4, 000, 000	21	999
第 19 期	2023 年 3 月助成	19	4, 700, 000	20	642
第 20 期	2023 年 9 月助成	15	4, 000, 000	15	523
合 計		249	76, 603, 145	356	15, 237



申請事業活動の特徴

第1期から第20期までのべ249団体に助成を行ってきた中で、子ども食堂や学習支援など、子ども・若者の貧困に関する活動を行っている団体や、高齢者福祉に関する活動団体が目立っています。また、障がいへの認知を広げる活動や障がいを持つ方の社会参加を支援する活動、ひきこもりのピアサポート活動からの申請もあり、人々に寄り添いたすけあいを進める幅広い活動に申請が広がっています。



市民活動の先駆性・有効性・持続性・参加性、そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性、持続性と共に、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを拠出し合い、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員（敬称略）

委員長	手塚 明美	一般社団法人ソーシャルコーディネートかながわ 理事長
	田中 夏子	イタリア協同組合研究者/ 農業者
	川岸 卓哉	弁護士/（特非）原発ゼロ市民共同かわさき発電所理事長
	友澤 ゆみこ	（特非）ピッピ・親子サポートネット 理事長
	高村 文子	三浦市民交流センター ニナイテ センター長
	伊藤 保子	元（特非）さくらんぼ理事長
	齊藤 輝美	さがみ生活クラブ生協理事
	戸田 美智子	かながわ生き生き市民基金理事・生活クラブ神奈川副理事長





福祉たすけあい基金 選考講評

選考委員長 手塚 明美

(一社) ソーシャルコーディネートかながわ理事長

(公財) かながわ生き活き市民基金理事

第 19 期 (スタート助成)

第 19 期はスタート助成でした。申請は 20 件あり、申請金額は 640 万円を超えました。スタート助成は、設立後間もない団体の事業や既存の団体が新たな課題解決に取り組む新規事業の立ち上げを支援しています。今回の申請の中にも新しい課題の解決に向かう組織からの申請があり、市民活動の息吹が感じられました。

本助成は、3 回まで継続して申請することができますので、2 年目、3 年の申請も増えてきました。1 年目の活動成果を踏まえたご提案を頂くことが多いのですが、当初から 3 年の計画を立て、着実に歩を進めるタイプの申請も出てくるようになりました。新規申請は 8 件あり、市民の日常を支える市民の自主的な活動は、コロナ禍を超える勢いを感じられるようになりました。

本助成の財源は、広く市民から寄せられた 100 円/1 ヶ月の積み上げです。市民の草の根活動に大変ふさわしい資金と自負しておりますので、そちらへのご協力も併せてお願いいたします。



第 20 期 (通常型)

第 20 期福祉たすけあい助成の選考にあたり、応募された 15 の活動企画の内容をしっかりと拝見させていただきました。どの活動企画も現代社会の大きな社会的課題を捉え、実績を踏まえた提案となっており、特に社会の変化や今後の展望に期待できる企画内容であることがわかりました。準備した資金の中での選考となりましたので、申請額通りは 2 団体、残る 13 団体の皆様へのサポートは、助成額そのものを検討させていただき、応募したすべての活動に向け助成を行うこととなりました。

今回は、特に活動テーマが多様で、一つの地域で応募にある活動が全て展開できたなら、どんなに居心地の良いまちができるのかと夢が膨らみました。現実にはそのようなことはあり得ないのですが、可能であれば他地域への展開も望みたい活動ばかりです。「福祉たすけあい基金」の「福祉」は広く「社会福祉」の観点を見据えていることを、常に市民の皆様にお伝えしていたことが、徐々に実を結んできたように感じた選考会となりました。応募された団体の皆様をはじめ、基金の原資にご協力いただいている皆様、活動を見守っている多くの市民の皆様に深くお礼を申し上げるとともに、引き続きのご協力を賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。

NPO法人 フードバンク浜っ子南（横浜市）

代表理事 下山 洋子

助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2020年6月1日（NPO法人設立2021年4月23日）

団体の目的・活動内容

目的）品質に問題ないが様々な理由により市場に出せない食品、防災備蓄食品の入れ替えに伴い余剰となった食品、家庭の消費しきれない食品を、企業・団体・個人から寄贈いただき、賞味期限等の安全性に十分留意したうえで「食の支援を必要としている方々に無償で提供を行う。この活動を通して、だれひとり取り残すことなく食を分かち合える豊かな社会を創ることを目指す。

活動内容

1. フードパントリー事業（ひとり親家庭食品提供支援）
2. フードデリバリー事業（子ども食堂等へ食品提供）
3. フードドライブ事業（個人・団体・企業から余剰食品の寄付を募る活動）

活動歴

2020年7月戸塚区でフードパントリー活動を開始

2020年10月南区で2カ所目のフードパントリーを開始

2021年3月磯子区で3カ所目のフードパントリーを開始

2021年7月

戸塚区第2会場で4カ所目のフードパントリーを開始

2022年4月

南区第2会場で5カ所目のフードパントリーを開始

2023年4月現在

毎月5会場でフードパントリーを開催、
ひと月約180世帯に食品提供

団体情報

住 所： 横浜市戸塚区深谷町1252番地13
ドリームハイツ3-203

電話番号： 080-9201-4357

メールアドレス： smile@fbh-minami.org

URL： www.fbh-minami.org

★助成した事業・活動 フードバンク

★内容

ひとり親世帯への食料支援および子ども食堂等地域団体への食品提供と、提供食品の寄贈を募る活動を通して地域に食の助け合いの輪を広げる活動

★助成対象

食品倉庫賃貸料

助成を受けて…の思い・メッセージ

活動し始めて今年で3年になります。このたび3回目の助成をいただき、フードバンク活動に欠かせない食品保管庫を確保することができ、心から感謝しております。ひと月のフードパントリー支援は増加し続け活動開始当初と比べて6倍になっています。また、ひとり親家庭の経済的困難の解消の難しさ、子育てや健康問題、地域でのつながりの薄さなど様々な課題が見えてきました。

これからは、食の支援を入口に地域の様々な支援団体とつながりを深め、ひとり親とその子どもを支えていく活動をつくっていきたいと願っています。これからも応援お願いいたします。

会場準備



冷凍食品の提供



野菜の提供



フードパントリー
クリスマス会

一般社団法人 みんなのレモネードの会（横浜市）

代表理事 榮島 佳子 助成金額 50,300円

団体紹介

設立年月

2020年4月

団体の目的・活動内容

小児がん患児家族の立場から「小児がんのことをもっと知ってほしい」、「患児や患児家族でつながりたい」と小児がん啓発活動、患児やその家族の交流会などを開催しています。

活動歴

小児がん啓発活動（レモネードスタンド・絵本朗読会・講演会）／小児がん患児家族の交流支援事業（各種オンライン交流会・対面交流会）／患児・きょうだい児が共に協力してお世話になっている病院や施設にクリスマスプレゼントを届ける活動（みんなレモサンタ）など。

団体情報

<https://www.minnanolemonade.com/>

★助成した事業・活動

オリジナル缶バッジで9月の小児がん啓発月間を啓発＆応援

★内容

缶バッジの製作費と送料

★助成対象

物品購入費、通信運搬費

助成を受けて…の思い・メッセージ

この度は、当会の事業「オリジナル缶バッジで9月の小児がん啓発月間を啓発＆応援！」に助成頂き、ありがとうございました。

2月15日の「国際小児がんデー」の缶バッジは当会で既に作成済みで、患児家族だけでなく多くの支援者の方から、とてもご好評を頂いていました。「小児がん啓発月間」（9月）の缶バッジはまだ制作できていないので、助成を受けて作れることをとても嬉しく思います。

缶バッジは、カバンや洋服に付けるだけで手軽に啓発活動ができるだけでなく、患児家族同士にとっては、同じものを持つことで大きな心の支えにもなります。

今年の小児がん啓発月間には、全国で同じ缶バッジを付けて思いを共にしようと思います。ご支援に心より感謝申し上げます。



オンライン
自習室



横浜市中
区での対
面交流会



横浜市立大学
付属病院

特定非営利活動法人 ユナイテッドかながわ（大和市）

代表理事 市原 信行 助成金額 360,000円

団体紹介

設立年月

1999年8月

団体の目的・活動内容

当法人は、地域助け合い、相互扶助、仲間を大切にしながら、自然災害被災地への支援活動を行います。また、神奈川県内の連携、防災力、受援力の向上を目指して技術力や県内外の情報の有効活用を行い、当法人の発展と県内外被災地への支援活動および地域防災、人材育成、児童支援などに寄与することを目的としています。

活動歴

1999年～県内のボランティア・市民活動団体のネットワーク作り、情報提供などの支援事業

2011年～東日本大震災避難者支援活動、交流サロン、児童福祉施設等交流事業

2019年～2019年台風15・19号被災地（横浜市・川崎市・相模原市等）支援活動

2020年～「ユナイテッドかながわ」および「やまと災害ボランティアネットワーク」合併、「特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ」として神奈川県から認証、神奈川県大和市柳橋に活動拠点「かけはし・やなぎばし」を構え、子ども食堂を含む子ども支援および地域支援活動を展開

団体情報

住所：大和市柳橋2-8-6 「かけはし・やなぎばし」

電話：046-204-4100

メールアドレス：info.united.kanagawa@gmail.com

ホームページ

<https://unitedkanagawa.jimdofree.com/>

★助成した事業・活動

『多国籍団地健康支援』プロジェクト』

★内容

生活困窮世帯支援、高齢者支援、外国籍交流会、居場所支援、日本語支援など

★助成対象

ボランティア謝金、通信費、物品購入、水光費、交通費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

この度は当法人の活動に理解をいただき、またご支援いただき誠にありがとうございます。

これまで10年以上の災害支援活動および児童養護施設との交流事業での経験を踏まえ、神奈川県大和市柳橋にある古民家を改修し災害および子ども支援活動拠点を構えました。次世代を担う子どもが心身ともに安全かつ健全に育つには、母子や困窮世帯の子どもたちへの食支援および居場所支援はもちろん、孤立しないよう地域ぐるみで子どもたちを見守る体制が必要不可欠であると考えております。

地域コミュニティ確立はすなわち防災・減災活動および災害発生時にも復旧・復興活動等で力を発揮することを、経験を以て実感しております。上記に加えて文化・習慣の違いから地域に馴染みにくい外国籍世帯への支援活動も含め、お互いが助け合い支え合う精神を育むことができるよう、ボランティア活動者の成長も含め今後も邁進してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



一般社団法人 あそびの庭(二宮町)

代表 渡辺 優子 助成金額 324,000円

団体紹介

設立年月

2020年10月(法人化は2021年2月)

団体の目的・活動内容

子どもは遊ぶ!大人だって遊ぶ!!にのみや町を
あそびの庭に!!!。地域団体や行政等と連携を
図りつつ、「あそび心が広がる豊かな体験の場」を創
り出すことで、子どもも大人も自分らしく心豊かに生
きられる町づくり、社会づくりをしていくことを目的と
し、主に二宮町内で活動しています。

活動歴

- ・はらっぱベース(誰でもどうぞの居場所事業:2021年12月~)
- ・あそびの庭キャンプ(地元でキャンプ:春と秋)
- ・にのみや暮らし市あそびの庭(大人も子どもも楽しむ地元マルシェ:年2回)
- ・あそびの庭新聞(スタッフ5人の情報発信:年4回)
- ・はらっぱマルシェ(はらっぱマルシェ実行委員会メンバーとして:年10回)など

団体情報

活動地:中郡二宮町

メールアドレス:asobinoniwa2020@gmail.com

団体HP:

https://peraichi.com/landing_pages/view/asobinoniwa/

★助成した事業・活動

居場所

★内容

「はらっぱベース」~子どもまん中の居場所づくりと
命を守るまちづくり

★助成対象

コンテナ利用料

助成をうけて...の思い・メッセージ

本助成を受けて、一年間、平日の月水金、夏休みや春休みも含めて継続的に場を開け続けることができました。学校に行けない、行かない子どもたちの居場所をつくりたいと立ち上がり、広く、「誰でもどうぞ」で運営していますが、段々と、町内外の不登校の小学生たちが集まるようになってきました。問い合わせなども増え、ニーズを感じています。また、あたたかなまなざしを広げるための発信地としても活動していますが、子育てに悩む保護者や移住してきたばかりの家族の来場もあり、町内での繋がり合う拠点としての役割も感じています。

二年目の今年度は、原点に立ち返り、学校以外の居場所として選んで来てくれる子どもたちとのコミュニケーションを丁寧に続けること、学校や行政機関との関係性の構築、同じような志を持つ民間団体との連携などを進めていきたいと思っています。続けることで見えてくる課題をひとつひとつ乗り越えながら、「しあわせに生きる」社会づくりへと繋げていきたいです。



Kids Fine(相模原市)

代表 渡辺 晃子 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2022年5月始動
一般社団法人2022年12月

団体の目的・活動内容

障害を抱えた若年層の方のコミュニティスペース事業です。

支援学校などを卒業した18歳以上の方が休日に安心して出かけられる場所です。

障害を理解してくれる大人がいて成長を見守ってくれる大人がいます。気軽に近況報告や振り返りなどの話ができたり、友達とゲームや趣味を共有し余暇を過ごしています。

月に1度のペースで外出のイベントを一緒に計画し活動しています。

活動歴

・主に日曜日(kidsFineの拠点を14時から16時オープン)

おしゃべりtime・壁面製作・看板づくり・ハンドメイド体験・マインクラフトゲーム他

ハロウィンパーティークッキング・クリスマスケーキクッキング

・外出イベント

SC相模原サッカー観戦・お好み焼き本舗他外食
ボーリング・地域マルシェ・氷川神社初詣

団体情報

活動拠点: 相模原市中央区中央1-1-8

プラズ相模原Ⅱ101号

TEL 080-6407-0074 mail kids.fine2022.04@gmail.com

URL http://Instagram.com/kidsfine_2022

★助成した事業・活動

Kids Fine (キッズファイン)

★内容

『Youth Fine』 障がいを抱えた若年層が集う場所の提供

★助成対象

賃貸料、通信費、駐車場代、物品購入費等

助成を受けて...の思い・メッセージ

この度は、私たちの活動にご理解と助成をいただき感謝いたします。

活動のきっかけは、障害を抱えた方が18歳で支援学校やインクルーシブ学校を卒業した後、それぞれの進路に進みます。社会に出てからの新たな悩みや価値観の迷いなど社会参加のスタートは親も子も不安を抱え込みがちです。そこで友達や理解してくれる大人がいる場所の必要性を考えました。休日に安心して出掛け友達と話したり、いきいき自分の生活を楽しめたらとささやかな願いの集まったコミュニティスペースです。設立から浅い団体ですが、小さな市民活動のスタートアップを応援していただいたことを励みに頑張っています！

今後は生活リズムが整い社会参加を送る彼らが先輩となり、後輩のモデルになって、支えるご家族にとっても、社会参加の幅が広がり助けとなれるような居場所づくりを目指したいです。



特定非営利活動法人 ふじぽけ(藤沢市)

代表 小澤 由加里 助成金額 176,000円

団体紹介

設立年月

2017年1月

団体の目的・活動内容

(目的)子どもを真ん中に多世代の市民が参加し、交流することで、子どもの健全育成に寄与する地域コミュニティを創造する。

(活動)子どもがふらっと立ち寄れ、自由に過ごせる子どもの居場所(週1回・放課後13時半～17時/17時～19時は中学生自習室)を提供する。2022年4月より「まちづくりハウスみろくじ」(空き家シェア活用ハウス)を拠点に活動開始。多様なボランティアの見守りの中、子どもそれぞれが「ふじぽけ」でのお気に入りの過ごし方をみつけている。

活動歴

2016年3月 子どもの貧困問題に関心を寄せた藤沢市内の有志で結成

2017年～2019年 藤が岡市民の家で活動。青少年会館秋まつり、市民の家まつり出展他

2020年～2021年 おんべ公園(藤が岡)で活動。磯遊び、野鳥観察等の自然体験企画実施

2022年4月～ 「みろくじハウス」を拠点に。食事会、人形劇公演、鷹取山遠足、たきび会等実施

団体情報

活動拠点:まちづくりハウスみろくじ(藤沢市弥勒寺1-22-21)

連絡先:090-6923-9846(小澤) / mail@fujipoke.org

HP: <https://www.fujipoke.org>

Facebook: <https://www.facebook.com/fujipoke.org>

★助成した事業・活動

居場所

★内容

一軒家をシェア賃借した、子どもの居場所活動

★助成対象

家賃の一部、ボランティア交通費、物品購入費、NPO活動保険等

助成をうけて…の思い・メッセージ

子どもの居場所の拠点となる空き家を探し続けて5年。求め続ければ願いは叶う！14畳のリビングルーム&キッチン、小中学校の通学路にあり、目の前が公園、なんとも好条件の一軒家&大家さんとの巡り合わせがありました。どうしてもこの一軒家を借りたい。でも丸ごとの家賃は払えない…考えたあげくに大家さんとも何度も話し合い、4つの団体とシェア賃貸のカたちになりました。設立6年目にしての夢の実現です。助成金のおかげで、家賃の資金繰りもなんとかクリア。本棚に本やマンガ、カーテン等の備品も揃い、子どもの拠点らしい装いができました。現在はご当地の小学生の常連も増え、現在平均15人程度の子どもたちが利用しています。

2回目の助成を受け、自立にむけて画策中。湘南ふじさわコモンズや他団体との連携強化を視野に、拠点を活かした活動を盛り立てていきます。



一般社団法人 トルコキキョウの会(相模原市)

代表理事 高木 伸幸 助成金額 220,000円

団体紹介

設立年月

2022年8月

団体の目的・活動内容

小児がんの治療研究、薬剤開発を推進し、小児がんの中でも特に死亡率が高い難治性小児がん「小児脳幹部グリオーマ」を主に啓発することにより、小児がん全体の治癒率向上をはかり、また小児がんに関わる諸問題を解決に導くことを目的としております。また、遊びを通じた支援や小児がん後遺症に悩む経験者とご家族の就労支援を行います。強い治療による容姿の変化で悩む、がん患者へのアピアランスケア、生活支援が必要な児童養護施設の子どもたちへのボランティア活動も精力的に行っています。

活動歴

- 定期的に小児がんの子どもにニット帽プレゼントや長期入院中の子どもに文具や生活用品のプレゼントをしています。
- 2017年、難治性小児がん「小児脳幹部グリオーマ(DIPG)」シンポジウム開催協力しました。
- 2019年、大原薬品工業株式会社は、本会の要望を受け、新規神経腫瘍治療薬ONC201の開発と販売に関するライセンス契約を締結しました。
- 2022年、小児在宅医療不足を解消するために、「医療的ケア児・者 在宅医療マニュアル」30冊を、現在無料配布しております。

団体情報

住所: 相模原市中央区相生3-3-9

TEL: 090-3336-6741

Mail: nobutin46621@yahoo.co.jp

URL: <https://torukokikyounokai.jimdofree.com/>

★助成した事業・活動

小児がん患者とそのご家族の相談支援事業

★内容

法人化に伴い「小児がん患者とそのご家族の相談支援事業・更なる課題解決と支援に繋げる」ための広報環境整備

★助成対象

ホームページ作成費

助成をうけて...の思い・メッセージ

平成13年11月より任意団体として、小児がん撲滅を目指す「トルコキキョウの会」として活動して参りましたが、より活動の幅を広げるために、令和4年8月より非営利型「一般社団法人トルコキキョウの会」として新たなスタートを切りました。

小児がんは抗がん剤や放射線治療などの強い治療により成長の遅れや身体的障害など、さまざまな後遺症(晩期合併症)を抱えるケースも多く、就学や就労など社会で自立するための長期的なフォローアップを必要とされており、成人のがんと異なるさまざまな課題があるのが現状です。そしてこの度、助成支援を賜りまして運営サイトの強化、及び相談事業の展開と、より広く適切な情報が小児がん患者やご家族に提供できるように運営したいと思っております。



NPO法人ぴあっと（相模原市）

代表 五十嵐 舞子 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月

2023年4月4日

団体の目的・活動内容

目的>発達障害や知的障害のある方が、地域の人のつながりの中で、自分らしく安心安全な生活を送ることができる社会の実現を目指しています。

活動内容>

- 主に以下の3つを行っていきます。
- ・ご家族へのヒアリング「おはなしぴあっとカフェ」
- ・地域や福祉情報の発信「地域取材とポータルサイトの運営」
- ・安心安全な環境を作るための「家や地域で起こった危険の事例集めと研究」

活動歴

2022年4月～活動に向けての準備をスタート
メンバー集め、事業内容決め、運営に必要な勉強等を経て2023年4月NPO法人格を取得。本格的に活動をスタートさせました。

団体情報

TEL: 042-816-3050(事務局)

Mail: info@npo-piatto.jp

URL: <https://lit.link/piatto>

★助成した事業・活動

発達障害や知的障害のある方の支援

★内容

さがみはら発達ポータルサイトと地域福祉取材チャンネルの構築と運営

★助成対象

物品購入費

助成をうけて…の思い・メッセージ

このたびはポータルサイト運営のための備品購入費等を助成いただきまして、誠にありがとうございます。障がいのあるお子さんを育てていると外出するのが大変だったり、子育ての悩みを共有できることが少なかったりすることで、孤独に感じてしまうことがあります。そこで、同じような子育てをした方や支援者さんからの口コミによる地域や福祉情報をお届けすることで、地域でのつながりを感じられるようなサイトを目指します。

まず1年目はポータルサイトの開設と運営、周知活動に力を入れていきます。

そして地域の色々な方と連携しながら活動を進めていくことで、地域全体で目的を達成できるように歩んでいきたいと思っています。他の助成団体さんとのつながりも楽しみにしています。これからよろしくお願いいたします。



特定非営利活動法人 居場所 そら（横浜市）

理事長 水信 理恵 助成金額 140,000円

団体紹介

設立年月

2022年4月設立

団体の目的・活動内容

未来を担う子どもたちの健やかな成長を支えるために、地域・学校と連携・協働して誰もが安心して過ごせる居場所や学びの場をつくり、子どもや青少年及びその保護者を支援し、人と人とのつながりを大切にしたい地域環境、社会の発展に寄与することを目的に活動しています。

学校に行きづらい子どもの過ごす場の提供、その保護者向け集いの開催、放課後の居場所の提供、ボランティア講師による無料塾、子ども食堂の開催などの活動をしています。

活動歴

- ・2020年より前身団体である橘中学校地域学校協働本部として活動開始。
- ・継続的な支援活動を持続、発展させるために、2022年4月にNPO法人を設立。

団体情報

活動場所：横浜市保土ヶ谷区

URL: <https://ibasho-sora.themedia.jp/>

Mail: info@ibasho-sora.org

★助成した事業・活動 居場所

★内容

放課後の居場所 そらカフェ

★助成対象

当番手当

助成を受けて...の思い・メッセージ

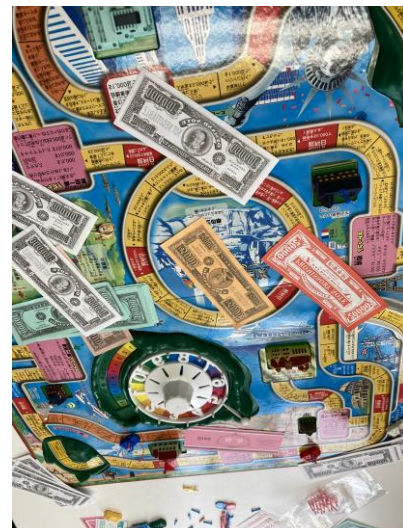
この度は2年目のスタート助成を受けることができ、心より感謝申し上げます。

昨年度NPO法人を立ち上げ、1年間あっという間でした。学校や地域の方々のご理解とご協力、様々な方々のお力添えで活動することができました。

「地域で地域の子どもたちを育てよう！」をスローガンに子どもたちの居場所作りをしています。

学校内で開催する放課後の居場所「そらカフェ」は、生徒たちに周知され、お友だちどうして楽しく遊んだり、ゆっくり本を読んだり、お絵描きをしたりと、それぞれが好きな時間を過ごせる居場所になっています。「久しぶり！元気だった？」部活終わったの？お疲れ様！「最近どう？」など、生徒と会話するのもこちらの楽しみの一つ。そんな大人との関りが子どもたちにとっての安心に繋がると考えています。

今年度も地域の子どもたちのためにスタッフ一同尽力してまいります。そして、この活動を他の地域や学校に広めていきたいと思っております。



一般社団法人Thoughtful Gift（横浜市）

代表理事 菊池 奈々子 助成金額 297,600円

団体紹介

設立年月

2021年3月設立

団体の目的・活動内容

私たちは、精神障害により閉鎖病棟などの精神科病院へ入院する際に必要な物資を無償で提供する非営利団体です。主に神奈川県内の病院を対象としています。

活動歴

- ・発足から2年で180件以上物資をお送りしました。現在は毎週土曜日に保土ヶ谷に集まって発送作業をしています。
- ・物資は衣類や日用品など約40種類、企業や団体などから物の寄付を募って活動して企業で余ってしまった販促品などいます。例えば開催中止になったイベントのTシャツや、。
- ・地域のイベントへ出展し、物資に入れる患者さんへのメッセージカードを来場者に記入してもらっています。約300名分のカードが集まっており、1枚ずつ依頼に入れています。
- ・ボランティアは20名ほどおり、半分が大学生です。20代～40代のボランティアメンバーで活動しています。

団体情報

URL: <https://www.thoughtfulgift.org/>

Mail: info@thoughtfulgift.org

住所: 横浜市中区桜木町1-101-1 クロスゲート 7階

★助成した事業・活動

ソースフルギフト活動

★内容

精神障害により閉鎖病棟などの精神科病院へ入院する際に必要な物資を無償で提供する。

★助成対象

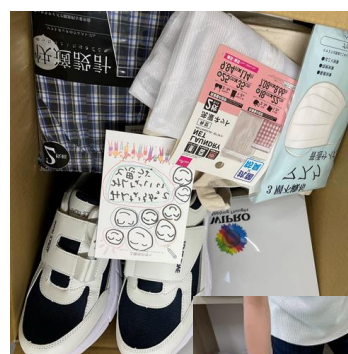
宅配料、ボランティア交通費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は患者さんに送る物資の配送費などを助成頂き、ありがとうございます。活動を始めて2年が経ち、おかげさまで累計180件を超える依頼に対して物資をお送り出来ています。

今年に入り配送料金の値上がりもありました、助成金をいただけて本当にありがたいです。

精神疾患を抱える患者さんにそっと寄り添いながら、私たちはあなたの回復をゆっくり待っていますというメッセージを支援物資とともに送り続けたいと思います。



葉山こどものための人材バンク（葉山町）

代表 坂本 直子 助成金額 101,320円

団体紹介

設立年月

2022年6月

団体の目的・活動内容

葉山の子供たちが地域の方々（大人）と触れ合うことで、自分自身のこれからの生き方、働き方など自分らしい生き方を具体的に想い描くきっかけを作ることを目的としています。

主な活動は、学校からの地域サポート依頼があった場合にそれに合った人材を派遣することです。また人材育成のための研修会、人材同士の交流会なども行っています。

活動歴

焚き火で焼き芋サポート、スポーツごみ拾いサポート、社協主催学習会参加、卒業制作サポート
厚木小鮎小学校CPTA視察、フリースクール講師派遣、集団下校サポートなど

団体情報

メールアドレス: hayamajbank@gmail.com

HP: www.hayama-jbank.com

★助成した事業・活動

地域講座、人材育成

★内容

大人の探求学習in葉山 ワークショップ

★助成対象

講師謝礼の一部

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は私達の団体を助成先に選んでいただきありがとうございます。葉山子どものための人材バンクの主な活動は学校からの地域サポート依頼があった時にそれに合った人材を派遣することです。その人材となる地域の方々に今の学校のシステムや子どもたちの様子を学んでいただく研修会等の大人の学びも積極的に進めています。中でも、探究する学びについて学ぶ研修会に力を入れております。今回、助成先に選んでいただいたことで、探求学習の講師 市川力氏を講師にむかえての研修会の開催を実現することができました。

今年度より葉山町内全6校でコミュニティスクールが始まることで、地域住民のサポートがより必要不可欠となってきます。今後の活動のステップアップのためにも、いただいた助成金を有効に活用させていただきます。



認定NPO法人フリースペースたまりば(川崎市)

理事長 西野 博之 助成金額 250,000円

団体紹介

設立年月

1991年4月

団体の目的・活動内容

学校や家庭・地域のみに居場所を見出せない子どもや若者及びその保護者とともに、一人ひとりが安心して過ごせる居場所をつくり、学校外の多様な学びや育ち・生き方を支援し、自己肯定感を取り戻す人間関係を育む環境と文化を創造することを目的に設立。

活動歴

2003年 特定非営利活動法人「フリースペースたまりば」として法人化。川崎市子ども夢パークが完成し、川崎市(生涯学習振興事業団)より「フリースペースえん」の運営を受託。

2006年 「(財)川崎市生涯学習財団」と共に、指定管理者として「川崎市子ども夢パーク」全体の管理運営にあたる。2013年 「川崎市学習支援・居場所づくり事業」を受託。

2014年 川崎若者就労自立支援センター「ブリュッケ」の開設・運営。「川崎市ひきこもり等児童福祉対策事業」を受託。

2020年 コミュニティスペースえんくるを開設。

団体情報住所

住所: 川崎市高津区千年435番地10

電話: 044-833-7562

MAIL: jimukyoku@tamariba.org

URL: <https://www.tamariba.org/>

えんくるFacebook:

<https://www.facebook.com/encru.tamariba>

★助成した事業・活動

食支援からSOSをキャッチし「相談CAFE」からはじめる誰一人取り残さない地域連携ネットワークの構築

★内容

マンツーマンで相談できる「相談 CAFE」を開催する。

★助成対象

相談員謝金の一部

助成をうけて...の思い・メッセージ

この度は当法人の運営する「コミュニティスペースえんくる」の「相談カフェ」スタートアップにご支援をいただき誠にありがとうございます。コロナ禍でスタートした週4日の「フードパントリー」、月3回の多世代型地域食堂「えんくる食堂」を開き続ける中で、多様な方にご利用いただき、立ち話をするうちにそれぞれの困りごとを聴くことになりました。ただ食糧を渡し食事を提供するだけでは必要な支援に繋げることは難しいと感じる中、気軽にお茶を飲みながらきちんと時間を取って困りごとを聴く「相談カフェ」事業に力を入れてまいります。

当初グループ相談会を計画していましたが、1人の方が抱える相談内容の深刻さ、複雑さを考慮して、1人1枠ずつ時間を確保し個別対応形式でじっくり聴いてし寄り添える場として開いていきます。

また当方だけでは解決できない課題は「かわさきくらしやすい地域をつくる会」を立ち上げ、地域全体で支えるネットワークを構築していきます。一緒に考え活動する団体も募集しております。

どうぞよろしくお願いいたします。



一般社団法人ヨコハマ・インクルボッチャ・ラボ(横浜市)

代表理事 佐塚 丈彦

助成金額 110,000円

団体紹介

設立年月

2021年10月

団体の目的・活動内容

ボッチャ普及事業

活動歴

小中学校、地域自治会、高齢者施設でのボッチャ体験講習会の講師、イベントでのボッチャ体験ブース担当。

団体情報住所

住所: 横浜市栄区上郷町262-32-1-514

電話: 080-5523-7468

MAIL: nfo@incluboccia-lab.com

<https://incluboccia-lab.com>

★助成した事業・活動

「ボッチャ普及事業」発展のためのセカンドプロジェクト—「詰めボッチャ」普及とサポーター基金の創設で活動の充実を図る—

★内容

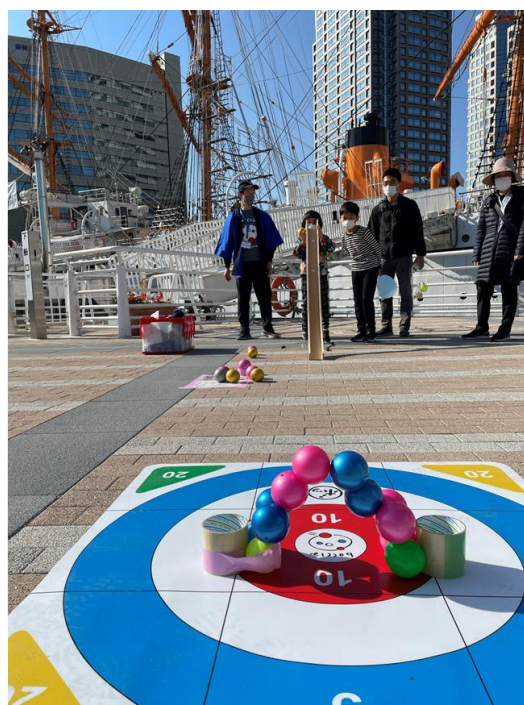
自作ボッチャボールを使用した遊び方の紹介など

★助成対象

物品購入費、広報費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

誰でも一緒に楽しめるボッチャが、地域の中で人と人をつなぐツールとして普及していくことで共生社会の構築の基礎ができると信じています。競技ではなく、コミュニケーションツールとして、参加者の状態に合わせた遊び方を紹介し普及事業を展開します。



横浜市立大学 one by ONE (横浜市)

共同代表 光山 瑞穂

助成金額 250,780円

団体紹介

設立年月

2018年12月

団体の目的・活動内容

入院中の子どもたちにも「つながり」を感じてほしい、楽しい時間を過ごしてほしい、をコンセプトに活動している横浜市立大学の学生団体です。

小児病棟に入院している子どもたちを主な対象として、入院中のお勉強をお手伝いする「オンライン家庭教師」、また小児病棟でのイベント企画も行っています。

活動歴

オンライン家庭教師 200回以上(2023年4月10日現在)

イベント企画 8回(のべ37家族97名参加)

団体情報住所

MAIL

onebyone.yokohama1122@gmail.com

URL

<https://onebyonechildren.jimdofree.com/>

★助成した事業・活動

小児病棟における院内家庭教師ボランティア
および院内イベント企画

★内容

入院中の小～高校生を対象とした、学習支援とイベントの開催

★助成対象

通信費、イベント費用

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

昨年度に引き続き、横浜市立大学one by ONEの活動にご支援をいただきまして誠にありがとうございます。

私たちは入院中の子どもたちに、見守ってくれている人がいる安心感と、入院生活でも楽しい時間を届けたいとの思いで活動しております。

活動の2本柱となるオンライン家庭教師とイベント企画では、コロナと入院生活両方の制限を受ける中でも、お子さんへの学びの機会の提供と、お子さんご兄弟も含めたご家族と一緒に楽しめるようなイベントの企画を行なっております。今までのオンライン家庭教師では、「わからない問題を質問することができてありがたかった」、「オンライン家庭教師を楽しみに治療を頑張れた」、オンラインイベントでも、「家族の思い出が出来た」、「宝物が増えた」などのお言葉をいただいております。

これらの活動の継続と発展のため、賜った助成を支えにさせていただきながら、今年度もさらに多くの入院生活を送る子どもたちに学習面と精神面両方のサポートが出来るよう、メンバー一同邁進して参ります。



リンパ浮腫ネットワークジャパン(横浜市)

代表 岩澤 玉青

助成金額 360,000円

団体紹介

設立年月

2019年11月

団体の目的・活動内容

「リンパ浮腫」は、乳がんや婦人科がん等の治療後に発症する後遺症で、難治性疾患です。リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)は、リンパ浮腫に関わるすべての人が、困ることなく笑顔で安心して過ごせる社会を目指して、患者支援と医療環境改善を実現するために2019年11月に設立されました。準備期間を経て春から活動をスタートし、仲間と出会い 経験や知恵などを共有しながら支え合うおしゃべり会「なかまカフェ」や、正しい情報を学ぶ「リンパ浮腫セミナー」、リンパ浮腫に関係するがん患者会・支援団体や医療者が交流(ネットワークを構築し、共に協力しあって活動できる関係づくりの場としての「ネットワーク・ラウンジ」などを開催しています。また、リンパ浮腫の「ワンストップ型の情報提供」を目指したポータルサイトの運営をしています。

活動歴

2022年活動実績(11回 730人)

なかまカフェ:4回 66人

リンパ浮腫セミナー:3回 480人

セルフケア相談ルーム:2回 24人

「リンパ浮腫と就労」シンポジウム:160人

ネットワークラウンジ:1回 10人

リンパ浮腫のポータルサイトの運営、政策提言活動(第4期がん対策推進基本計画への要望書提出)、講演活動他

団体情報住所

住所・電話番号:非公開

WEBサイト:<https://lymnet.jp/>

Mail: lymnet.info@gmail.com

<https://www.facebook.com/LymphedemaNetworkJapan>

★助成した事業・活動

リンパ浮腫情報ポータルサイトの拡充

★内容

おしゃべり会「なかまカフェ」、リンパ浮腫セミナー「ネットワーク・ラウンジ」、相談会の開催

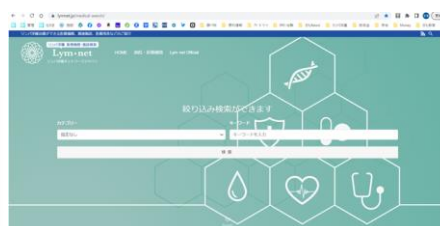
★助成対象

WEB作成費、諸謝金、動画撮影の備品

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は、リンパ浮腫ネットワークジャパン(リンネット)の活動にご理解とご支援をいただき、ありがとうございます。がん治療後の後遺症である「リンパ浮腫」を取り巻く医療環境には様々な課題があり、リンネットでは、リンパ浮腫の患者支援と医療改善の改善に向けて取り組んでいます。

福祉たすけあいスタート基金に助成いただいたことで、昨年度は全国のリンパ浮腫の医療施設が検索できる、患者さんにとって羅針盤のような情報が提供できるようになりました。今年度も、リンパ浮腫に悩むがん患者さんの環境が良くなるように、また、寄付をいただいた皆様のお気持ちが患者さんに還元されるように、しっかりと活動に取り組んで参りたいと思います。本当にありがとうございました。



Book & Art ニワシドリ (座間市)

代表 飯島 公子

助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2020年11月

団体の目的・活動内容

本やアート(表現活動)を仲立ちとして人と人とがつながり、地域における居場所となる活動を行うことを目的としています。その目的を達成するために、主に3つの柱で活動を進めています。

・まちライブラリー(文庫)活動で、本やおもちゃの閲覧・利用、貸出しや一箱本棚オーナー制度・読書会・絵本セラピー等を通して、様々な世代の交流ができる、斜めの関係づくりを目指しています。

・アートワークショップ活動では、参加者自身の創造性を引き出すとともに、他者との多様な交流のなかで、自身の表現活動を通して自己肯定感を高める場としていきたいと考えています。子どもだけではなく、大人も楽しむ『大人の美術部』も始めました。

・体験活動では、子ども達に具体的な体験をよりどころとして、感動したり、驚いたりしながら「なぜ?どうして?」と考えを深める中で学んでいくような活動を目指します。

* 居場所支援活動として、学校に行きづらい子ども達が安心して過ごせる場となるよう、学生団体と連携した無料の学習支援も含めた活動やイベントを行っています。

活動歴

本の貸出し、本のリサイクル、ワークショップ等の企画・運営

団体情報住所

住所・〒252-0028 座間市入谷東4-60-33

Mail: hoshinotani.bunko@gmail.com

FB: <https://www.facebook.com/hoshinotanibunko>

★助成した事業・活動

Book & Art ニワシドリ「さらに活動を広げるための、広報活動の充実とイベント企画の開催」

★内容

まちライブラリー活動、アート、体験活動のイベント企画・開催、無料学習支援

★助成対象

講演会謝金、広報費、物品購入費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

15期・17期に続き、ご支援をいただき心より感謝申し上げます。ご支援いただいた助成金で、子育て世代の方を中心に絵本の魅力を知っていただく講演会や、お話コンサート、アートワークショップ、科学実験教室など多岐にわたる活動を展開することができました。それらのイベントを通して、ニワシドリの活動や拠点となるライブラリーを知っていただくことで、さらに新たなつながりや活動へと展開しています。8月からは、学生団体と連携して小中学生の無料の学習支援活動もスタートしました。ライブラリーの姉妹館も新たに海老名市に開設することができ、学校以外の多様な子ども達の居場所・学びの場としての活用も始めることができました。『本と出会い、人と出会い、新しい自分と出会う まちの図書館』を拠点に、地域でのつながりを大切に笑顔があふれる活動の展開にご支援を活かしていきたいと思っております。



NPO法人霧が丘ぷらっとほーむ（横浜市）

代表理事 根岸あすみ

助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2022年4月

団体の目的・活動内容

街の「大変」が「楽しみ」に変わる連鎖が広がることを大切に、地域に住む、様々なコミュニティの人が繋がりを・楽しみ・小さな困った事を助け合い、学び合い、地域みんなで解決できる仕組みをつくることで、人の温かさが感じられる幸せな地域づくりの実現に寄与することを目的とする。

平日は地域コミュニティカフェを軸とした地域の常設の繋がれる場所の運営を通じて人の繋がれる場所を創っています。日本語教室やスマホ教室など、地域住民の小さなサポートで困っている人に前向きなアクションを起こすスキルのシェアの場としても様々な活動をしています。

活動歴

2020年 地域の3つの団体の情報共有会がスタート

2021年 ヨコハマ市民まち普請事業に上記3団体の有志でチャレンジ

2022年 2月 ヨコハマ市民まち普請事業で上位3団体に選ばれ助成が決定

2022年 4月 NPO法人化

2023年 1月 ぷらっとkiricafe オープン

団体情報住所

住所・横浜市緑区霧が丘3-26-1-205

霧が丘商店会内

電話：048-489-9405

Mail: kirigaokaplatform@gmail.com

<https://www.kirigaokaplatform.com/>

★助成した事業・活動

地域の人々が繋がれるきっかけになる場所
ぷらっとkiricafe の1年目の土台づくり

★内容

ぷらっとkiricafeの運営

★助成対象

物品購入費、消耗品、通信費、リース代、印刷費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

23年1月13日に横浜市緑区霧が丘に地域コミュニティカフェ「ぷらっとKiricafe」をOPENすることができました。「世代・国籍を越えた仲間」と創った地域の居場所です。

22年、ヨコハマ市民まち普請事業で場所の整備費の一部を獲得し、その切符を手に思い描いた場所を地域の仲間と一緒に創りました。

初めの1年の家賃補助費としてこの福祉たすけあい基金を活用させて頂きました。

放課後に宿題をする子どもの姿。キッチンではインドのママから80代のシニア世代まで活躍中です。

常設の場所がある事で地域みんなの優しさを集まっています。

これからも私たちはぷらっとkiricafeの旗を立て、居場所を温かく広げていきます。



91歳のお誕生日会を
kiricafeで



キッチンにはインド
の仲間も♪



放課後の学習支援の
様子

一般社団法人リトルハブホーム(茅ヶ崎市)

代表理事 岩崎 愛

助成金額 360,000円

団体紹介

設立年月

2022年4月

団体の目的・活動内容

子どもシェルター、児童養護施設、教職での勤務経験を持つスタッフが、児童虐待をはじめ子どもが育つ環境に関する課題が深刻化していることを痛感。コロナ禍で社会的孤立がさらに深まる中で、貧困、虐待など様々な背景を持つ子どもや家庭が安心して育ち合う場を実現することを目的とし”小さな拠点(ハブ)がつながれば、まち全体が一つのホームに”をコンセプトに、茅ヶ崎で居場所を提供するべく設立に至った。

活動歴

2021年11月 任意団体 活動開始

2022年4月 一般社団法人 登記

2022年10月 活動拠点となる”みんなの家”開所
茅ヶ崎市社会福祉協議会海岸地区サロン
茅ヶ崎市子ども食堂 登録

2023年4月 茅ヶ崎市市民活動推進補助事業スタート
アップ事業採択

団体情報住所

住所: 茅ヶ崎市東海岸南2-1-15

Mail: littlehubhome@gmail.com

HP: bit.ly/3xKBvxm

Facebook: <https://www.facebook.com/littlehubhome/>

Instagram: @littlehubhome

★助成した事業・活動

おむすび寺子屋

★内容

安心して過ごす場が無く地域で孤立している子どもに対して、登録制でおむすび寺子屋(学習支援兼軽食の提供)の開催

★助成対象

家賃、通信費、印刷費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

この度は助成いただきありがとうございました。

子どもたちが安心して育ち合えるハブ(拠点)として、より発展していけるよう尽力して参ります。

根本的な課題として、子どもたちの現状の認知度の低さや関わるハードルの高さなど、多角的に取り組む必要がある中で、貴法人の助成をいただけることは、関心のある方に知っていただくなどの貴重な機会と強く感じております。

まだまだ始まったばかりの団体ですが、”昔ながらのおばあちゃんちの縁側”のような安心する場を各地域に広めていき、様々な背景を持つ子どもたちや家庭、地域の一人ひとりが生かされる循環を作れるよう育んで参りたいと思います。

この度は貴重なチャレンジをいただき、誠にありがとうございました。これからも、より良き地域社会のために進んで参りたいと思います。

今後とも応援よろしくお願いいたします。



チーム フランポネ（川崎市）

代表 マヌー島岡 助成金額 415,000円

団体紹介

設立年月

2022年10月

団体の目的・活動内容

- ・お笑い芸人の視点で「社会問題」を取り上げ「お笑い」の力で社会問題を 解決します。
- ・ユーモアを交えて楽しく笑いながら継続的に活動できます。
- ・「お笑い」の力で世界平和に貢献します！

活動歴

- ・2019年より日本に住む外国人を対象にした「漫才で覚える日本語」を開始する。
- ・2020年の4月からコロナ禍となり「令和の鎖国」が始まる。一時的に活動がストップする。
- ・2020年秋よりオンライン版「漫才で覚える日本語」を開始する。世界各国とオンライン版の講座が採用される。
- ・2021年より日本人と外国人がコンビを組んだ国際交流漫才というイベントを開始する。
- ・2021年より障害者就労支援施設でも漫才作成講座を行い「笑いのバリアフリー」も開始する。
- ・2022年よりマイノリティ(日本に住む外国人や障害者)が参加する漫才大会「D-1グランプリ」を実施する。D-1のDはDiversity(多様性)
- ・2023年より川崎にある朝鮮学校にて漫才作成講座及び 漫才大会を実施する。

団体情報

住所: 川崎市中原区上小田中6-37-1 メゾンシマダ201

メールアドレス: manabu_shimaoka@hotmail.com

★助成した事業・活動

日朝国際交流漫才大会

★内容

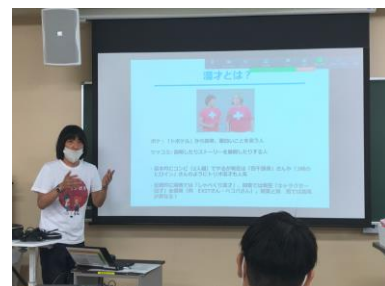
朝鮮人学校に通う小中高生と神奈川県に住む小中高生コンビを組んだ日朝国際交流漫才を実施することで相互理解を促進、結果、差別、及 ヘイトスピーチ軽減に繋げる。

★助成対象

人件費、交通費、広報費など

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

今まで完全無償で活動を行っていたため活動の継続に限界を感じていました。助成金が交付されたことにより活動費用が保障されたので金銭的なことを心配することなく活動に集中することができます。自分達の場合、「お笑いを通じた社会課題の解決」をテーマに活動しており、必ず結果を出します。



特定非営利活動法人神奈川フードバンク・プラス(横須賀市)

理事長 山田 洋

助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2017年7月

団体の目的・活動内容

社会の構造変化による生活困窮者、高齢者、ひとり親家庭の増加に対して、他のフードバンク団体と協力しながら、食品の提供及び生活支援に関する事業を行い、食品ロス削減活動を通じて地域社会の福祉増進に寄与する事を目的として活動しております。

活動歴

- ・公営住宅の一人暮らし高齢者への食支援(4ヶ所、隔月実施)
- ・コロナ禍による生活困窮世帯への食支援(毎月実施)
- ・ひとり親家庭への食支援(毎月実施)
- ・子ども食堂、老人クラブ、地区社協への食支援(毎月実施)

団体情報

住所: 横須賀市三春町5-21

TEL: 046-827-7050

団体HP: <http://foodbankplus Kanagawa.org/>

★助成した事業・活動

ひとり親家庭・無料学習会等への食支援拡大事業

★内容

倉庫家賃

★助成対象

賃借料

助成をうけて...の思い・メッセージ

昨今の諸物価値上げで、生活が苦しくなった家庭が増えております。事務所の電話やメールでの食料品支援への依頼が増え、特にひとり親家庭からの依頼では学校の夏休み期間中は給食もなく、給料日前には手持ちのお金もなく、満足に子どもに食事を出すことが出来ない。また年金暮らしの高齢者からも食費に苦勞しており、民生委員等を通しての支援依頼も増えております

私たちは、これら生活困窮世帯に対して、一世帯でも多くの対象者に食料支援を行っていく予定です。

今回の助成金を活用して活動の充実を図ります。ありがとうございました。



ことさんち（横浜市）

代表理事 實成 琴美 助成金額 202,500円

団体紹介

設立年月

2022年1月

団体の目的・活動内容

『誰もがつながり必要とされる社会』と『里親子・養子縁組親子が特別視されることなく人生を送れる社会』作りを目標とし、一歩ずつ歩んでいます。

『あかちゃんの会とおもちゃの広場』は誰もが出入りでき、【おもちゃ】と【あそび】でつながる場として、『里親子・縁組親子のためのあそび場[ことさんち]』は里親子・縁組親子が気軽にあそび、子育て相談をし、同じ境遇の者同士がつながる場として、毎月定期開催。それぞれの場作りをしています。今後は、地域イベントなどに参加をしての啓発周知活動や『里親制度』についての説明会・体験談話会などの企画開催を予定しています。

活動歴

『あかちゃんの会とおもちゃの広場』・『里親子・縁組親子のためのあそび場[ことさんち]』を月に1～2回定期開催

団体情報

メールアドレス: cotopas.co@gmail.com

団体HP:

『里親子・縁組親子のためのあそび場[ことさんち]』

<https://cototsukuri.com/coto-sanchi/>

『あかちゃんの会とおもちゃの広場』

<https://cototsukuri.com/baby-toy/>

★助成した事業・活動

里親子・縁組親子のためのあそび場[ことさんち]・『あかちゃんの会とおもちゃの広場』、広報啓発事業・活動事業

★内容

〔ことさんち〕『あかちゃんの会とおもちゃの広場』の開催、イベント参加

★助成対象

賃借料、広報費、消耗品費、印刷製本費

助成をうけて・・・の思い・メッセージ

活動の目標に向けた歩みのひとつ『里親制度』の啓発周知活動と開催継続へ、ご支援をいただきました。

昨年度児童相談所からの賛同を得、当事者の方々を繋げる場として『里親子縁組親子のためのあそび場[ことさんち]』を作りました。そして次の歩みとして、より多くの方々へ『里親制度』を具体的に知っていただく場を作る必要があると考え、今年度は地域イベントに参加をし啓発周知活動を行います。

制度への理解と参加は、里親や縁組という親子のあり方を特別としない社会であることとなり、どのような境遇の親子でも子育てしやすく何よりも子どもが生きやすい社会となります。ゆくゆくは少子化対策にも繋がると考えています。目標に向け、今後はさらに活動の幅を広げ歩んでいきます。その一歩へのご支援を心より感謝しています。ありがとうございました。



育ての親子のあそび場所
あそびおいで
【ことさんち】



【あかちゃんの会とおもちゃの広場】

あかちゃん
の会

おもちゃの
広場

〇 産婦人科
【あかちゃんの会】
手あそび・ふれあいあそび
お友だち作り交流
栄養士保育士による子育て相談

【あかちゃんの会とおもちゃの広場】は
東京おもちゃ美術館より提供いただいた「おもちゃ」を中心に
広場を運営コミュニケーション能力を養う
様々な「おもちゃ」と「あそび」を体験できます♪
〇 産婦人科から大人おひとりごとでも
「おもちゃ」を通して
出会い・ふれあい・育ちあう「あそび」の場です♪



〇 誰からどなたでも
【おもちゃの広場】
手作りおもちゃや季節行事製作作り
手あそびのお話
おもちゃコンサルタントおススメの
おもちゃで自由あそび♪

お問い合わせ
主催
子育て事業コンサルティング (cotopas)
寄附団体 (ことさんち)
Tel: 050-5896-6590
Mail: mail@cototsukuri.com

協力 東京おもちゃ美術館



湘南とアジアの若者による未来創造事業実行委員会(藤沢市)

代表 和賀井 稔

助成金額 270,000円

団体紹介

設立年月

2014年4月

団体の目的・活動内容

「平和で持続可能な社会の創造」に寄与する。

活動歴

・「湘南プログラム」インドネシアの日本語学科の学生2名を1カ月地域に招き、中学校で「インドネシア紹介授業」を40時間程度行う。平和には、異なる民族、異なる国家が互いの素晴らしさを知り、リスペクトできることが、その根幹であると考え。

・「平和交流プログラム」インドネシア青年6名程度を日本に招聘。広島・沖縄等の戦跡を訪問。

それをまとめた冊子をつくり、その冊子を用いて、地域の中学校の学年集会(300名)で平和交流を行う。

・「絵本で子どもたちの世界をひろげるプログラム」地域の中学生が古本屋で絵本を購入。家庭部の生徒が絵本を入れるかわいいポシエットを作成。絵本をいれたポシエットをインドネシアの日本語学科に空輸。学生は、日本語をインドネシア語に翻訳し、インドネシア語の絵本にする。その絵本を持って貧困の子どもたちに読み聞かせをする。最後に絵本はそのコミュニティに寄付。

団体情報

住所: 藤沢市亀井野2-3-17

TEL: 0466-82-0290

メールアドレス: minoru_wagai@yahoo.co.jp

★助成した事業・活動

絵本で子どもたちの世界をひろげるプログラム

★内容

絵本購入、ポシエット材料、絵本空輸費用

★助成対象

消耗品費、通信費

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

まず、深く感謝申し上げます。助成申請は「絵本のプログラム」ですが、これで、当面の1年間の活動ができます。このプログラムにはお金がかかりますが、いつまでも助成金に頼るわけにはいきません。郵船会社では、ボランティアで無料の輸送をしてくださったり、公民館では古くなって廃棄する絵本を頂くこともできそうですが、まだまだ、実績が十分ではありません。今、その実績作りをすることが大事かと思っています。

地域の方のご協力を得られるようにも、様々な提案をしていきたいと思っています。チャリティスポーツ大会とか、クリスマス、絵本サンタさんとかを考えています。



横内子どもサポートネットワーク協議会(平塚市)

会長 野中 一宗 助成金額 220,000円

団体紹介

設立年月

1997年7月

団体の目的・活動内容

平塚市横内地区の各種団体と連携し、地域のコミュニティの形成、地域の人材ネットワーク強化を支援する活動をしています。また、学校が週5日制になった2002年より小・中学生の「放課後の居場所づくり」を目的として始まった横内マイタウンスクールを主催し、地域の方々が得意なスポーツや趣味を子どもに教える環境づくりをしています。

活動歴

茶の湯、お琴、ジュニアバンド、卓球、和太鼓、フラワーアレンジメント、剣道、陸上、野菜作り、ドッジボール、浴衣着付、カードゲーム、ハイキング、防災キャンプを定期開催。20周年を祝う「ヨコフェス2022」は小学校校庭や公民館で活動報告(演奏)や大型花火が打ち上げられた。地域専用HP「ようち愛」を制作

団体情報

住所: 平塚市横内2506(横内公民館)

TEL: 0463-54-0118

メールアドレス: yokouchi.love2@gmail.com

団可能体HP: <http://yokouchi-love.com>

「ようち愛」でも検索

★助成した事業・活動

横内子どもサポートネットワーク協議会が主催する「横内マイタウンスクール」の継続的な活動

★内容

「ふれあいキャンプ 2024」開催費

★助成対象

気球搭乗費用の一部、諸謝金、消耗品費など

助成をうけて...の思い・メッセージ

通称、横内サポネットは1997年(平成9年度)に平塚市地域教育力ネットワーク協議会の設立に合わせて発足され、子どもたちが地域社会への主体的参加を通し、様々な世代間交流、生活体験、自然体験を積み重ね、「生きる力」を育むための活動を展開。平塚市内の15中学校区ごとに協議会では、各地域の特性を活かした子どもたちの「生きる力」を育むための自主事業と、子どもサポート看板設置やパトロールなどの共通事業を実施。

横内サポネットでは、自主事業として「横内マイタウンスクール」を運営。昨年20周年を迎えました。地域に住む方々が講師として、15種類の教室をボランティアで開催し、参加児童は300円の年間保険料の負担のみで幾つもの教室を体験できます。地域の活性化、活動の後継者を発掘するためにも、継続的な活動が非常に重要となります。今回の助成で町全体に良い影響が出るのは間違いなく、貢献度は図り知れません。本当に有難うございました。



特定非営利活動法人 鶴の仲間（横浜市）

理事長 吉原 修 助成金額 200,000円

団体紹介

設立年月

2000年4月

団体の目的・活動内容

私達は移動困難な高齢者・障がいのある人への外出支援・生活支援を主たる活動の目的とし、介助と車の運転で外出に関わる支援を幅広く行い、当事者・ご家族の精神的ご負担を軽減すると共に、併せて公的制度の活用により、金銭的負担の軽減を図る事を目指しています。

活動内容は、①横浜市障害者ガイドボランティア事業 ②知的障がいに関する学習会の開催 ③福祉有償運送事業 ④障がい者移動支援事業 ⑤リフレッシュア事業等を行います。

活動歴

移送サービスの任意団体として設立。2009年にNPO法人格を取得、「福祉有償運送事業」を開始、翌2010年には「横浜市障害者ガイドボランティア事業」の取り纏め団体として活動してきました。が2018年に高齢化・担い手不足により福祉有償運送事業より一旦撤退し、2023年新たにメンバーを確保し、9月から再度福祉有償運送事業に挑戦、設立初期目的の完遂を目指しています。

団体情報

住所：横浜市港北区綱島東4-5-39

TEL: 090-4127-2575

メールアドレス: tsuru.nakama9@gmail.com

Webサイト : <https://www.tsurunonakama.net>

★助成した事業・活動

高齢者・障がいのある人など移動に制約のある人の外出支援(福祉有償運送)

★内容

福祉有償運送事業、障害者移動支援事業、横浜市障害者ガイドボランティア事業など

★助成対象

車両リース代、駐車場代

助成をうけて...の思い・メッセージ

9月19日に助成決定のメールを受け取った時の率直な気持ちは「良かった～。助かった～」でした。本当に有り難うございました。

9月1日に事業は開始しましたが、福祉車両とその駐車場の確保、代表電話(スマホ)の購入、ホームページの開始、団体案内パンフレットの作成、月々の事務経費その他諸々、初期投資の負担は大きく、1年間は資金繰りで苦労覚悟の船出でした。いただいた助成金に合わせ、横浜市ガイドボランティア事業の入金やメンバーの個人出資もあり、当面の運営に目途がつき、「よお～し」とメンバーの意気がグンと上がった事は想像に難くありません。

今後は、障がいのある方の移動にかかる費用負担軽減と、団体の経済的自立を高め、「一意専心」障害福祉事業に取り組み、安全安心の地域作りに貢献して行きたいと考えています。



車両リース代・駐車場代を支援いただいた我々が頼もしい相棒です



9月4日、初めての利用者様へ向かう前に出陣式を行いました

一般社団法人神奈川県がん患者団体連合会(横浜市)

理事長 天野 慎介 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2019年1月

団体の目的・活動内容

一般社団法人神奈川県がん患者団体連合会(神奈川県がん連)は、神奈川県内のがん患者団体の連合体組織として、がん患者団体の連携や活動の促進を図りつつ、がん患者と家族の治療やケア、生活や社会における課題の解決に取り組み、がん医療の向上とがんになっても安心して暮らせる社会の構築に寄与することを目的として活動しています。

活動歴

- ・がん教育指導者研修会参加(県主催):2020年、2021年参加、2022年講義と活動VTRを提出
- ・がん教育外部講師養成研修会開催:2019年～2022年/毎年秋に2日間開催
- ・模擬授業研修会:2019年～2022年/毎年秋に2日間開催
- ・フォローアップ研修会:2020年～2022年/毎年2月に2日間開催
- ・がん教育外部講師派遣:2020年度は4校、2021年度は8校、2022年度は19校で講義

団体情報

住所:

横浜市港南区笹下二丁目1番12号小西屋事務所

メールアドレス:info@k-kgr.com

団体HP: <http://www.kanagawa-kenganren.jp>

★助成した事業・活動

神奈川県内の学校へ「がん教育」を届ける

★内容

がん経験者外部講師の派遣

★助成対象

諸謝金の一部

助成をうけて...の思い・メッセージ

この度は弊社団体の活動にご支援とご理解をいただき、誠にありがとうございました。

2人に1人ががんになると言われている時代、私たちは自身のがん経験を社会的価値と捉え、依頼をいただいたあった学校において、がん経験者外部講師として、がん教育の授業で講義を行っています。助成を受けられることで、授業での資料作成や交通費等の資金面での負担が軽くなり、質の高いがん教育授業の構築に安心して取り組むことができます。

今後もがん教育への取り組みを続けていくことで、この活動が子どもたちの生きるを応援すると同時に、がん患者との共生や多様性を含む社会課題の解決を図り、明るい未来を築く一助になればと思っています。



かながわりトルベビーサークルpena(平塚市)

代表 坂上 彩 助成金額 197,000円

団体紹介

設立年月

2021年7月

団体の目的・活動内容

低出生体重児とその家族が笑顔で過ごせる社会の実現

地域社会とのつながりを深め、当事者に「仲間」の存在を伝えるための写真店の会催、当事者の声を届けるための行政訪問や学会、シンポジウムへの参加。当事者家族同士で支えあうための交流会の実施やSNSでの情報発信、リトルベビーハンドブックの周知活動などを行っています。

活動歴

・リトルベビーハンドブック: 2021年黒岩知事へ作成要望を提出、翌年「作成検討会」に当事者団体として参加し、2023年8月の発行に際し贈呈セレモニーに参加。

・当事者家族の交流: オンラインまたは対面による月に1回程度の交流会とグループLINEの運営。

・写真展の開催: 世界早産児デー写真展の開催やリトルベビーハンドブック写真展の開催など。

団体情報

メールアドレス: pena.kanagawa@gmail.com

団体HP: <https://pena.kanagawa.jp/>

★助成した事業・活動

リトルベビーへの理解を深めるための写真展開催やシンポジウムへの参加

★内容

写真展開催費用、シンポジウム参加交通費

★助成対象

交通費、会場費、広報費、物品購入費など

助成をうけて...の思い・メッセージ

この度は私たちの活動をご支援いただきありがとうございます。感謝の気持ちでいっぱいです。

リトルベビーの家族は先の見えない不安や生まれたばかりの子と離れて過ごす寂しさの中、同じ立場の方と出会う機会も少なく、孤独を感じる方が多くいらっしゃいます。成長過程においてもリトルベビーならではの悩みや不安を抱えることがあります。これまで私たちは当事者団体として互いの気持ちに寄り添いながら支え合う場を提供してまいりましたが、今後は居場所を作ると共に、地域との繋がりを深める活動を行っていきたくと考えています。

また、当事者の気持ちに寄り添い、孤独を軽減させることを目的として神奈川県と共に作成していた「かながわりトルベビーハンドブック」がついに発行されました。一つの目標は達成しましたが、今後は必要とされている方が確実に受け取れるような周知活動や、このハンドブックを支援者とのコミュニケーションツールとして活用できるような呼びかけをしていきたいと考えています。これらの活動のために助成金を有効に活用させていただきます。



あつぎ難聴者手話の会「虹」(厚木市)

代表 永嶋 純子 助成金額 50,000 円

団体紹介

設立年月

2018年1月

団体の目的・活動内容

手話学習等を通じて、中途失聴・難聴者と健聴者の交流を図るとともに、難聴者等の社会参加や地位の向上、並びに地域社会の理解の促進を図る。

活動歴

毎月2回の手話勉強会を開催

設立以来1年に一回「やさしい手話講座」を一般向けに開催し、会員の拡大を図り2023年8月現在30名 今年で第4回を開催予定(コロナ禍の時は中止)

聞こえないことで困っていること等の一般市民向け無料相談会

障害福祉課との意見交換会、杉浦彩子心療耳鼻科医師講演zoom視聴

団体情報

住所: 厚木市毛利台3-24-11

メールアドレス:

Atsuginiji2023@googlegroups.com

★助成した事業・活動

第4回やさしい手話講座

★内容

手話講座の開催費用

★助成対象

交通費、諸謝金など

助成をうけて...の思い・メッセージ

私たちの活動にご理解いただき感謝申し上げます。助成金を受けることができてホッとしています。おかげさまで「第4回やさしい手話講座」を安心して開催できます。今回で4回目ですが、いつも資金の心配をしなくてはなりません。

会の代表が手話講師を兼ねていますので最悪はボランティアだと思いますが、協力してくださる人たちに、せめて交通費ぐらいはと思っています。難聴者は「聞こえにくい」ので、コミュニケーションをとることが非常に難しく、家族や、友人とも会話ができません。それゆえに消極的になって、引きこもり状態になる方も多くいます。私もそうでしたが、手話の勉強を通して、同じ悩みを持つ仲間とふれあい、交流することによって、前向きな生活を送ってほしい。そのための「やさしい手話講座」です。

難聴者は、途中で聞こえなくなったので、手話も中々覚えられないのが現状です。それでも、手話に触れてほしいという思いで「やさしい手話講座」開催して仲間を募っています。ですが、やはり高齢者が多いせいか、第3の言語といわれて健聴者には人気でも難聴者の方が、なかなか来てくれないのが悩みです。どうしたら虹の思いが伝わるのか、それが課題です。



NPO法人 まちラボ(横浜市)

代表 大越 雅美 助成金額 163,500円

団体紹介

設立年月

2022年8月

団体の目的・活動内容

身近な地域での学びの機会や、継続的な活動を実現するためのコンサルティングを提供し、市民と行政、市民と市民の協働を推進するための事業を行うことで、誰もがまちづくりの当事者として参画できる地域社会の実現に寄与することを目的とする。

活動歴

横浜市青葉区 青葉みらいづくり大学校
主催(青葉区役所との協働)

横浜市放課後キッズ運営法人職員研修
(都筑区)

アートイベントROJIURAR+(協力)

団体情報

メールアドレス: info@machi-lab.net

団体HP: <https://www.machi-lab.net/>

★助成した事業・活動

～仲間と出会う・仲間とまなぶ・地域とつながる
～「みんなでつくる大人のしゃべり場」

★内容

サロンの運営費用

★助成対象

広報費、諸謝金、通信費、会場費などの一部

助成を受けて…の思い・メッセージ

この度は福祉助け合い基金の助成をいただきまして、ありがとうございました。

私たちNPO法人まちラボは、これまで市民参加のまちづくりを応援するための講座の開催に取り組んできました。さらに今年度からは、50～60代の女性を対象にした地域の仲間づくりのためのサロンの開設を目指して準備を重ねてきました。

今まで子育てや仕事に忙しく過ごしてきた方々が、身近な地域で仲間と共に自分自身の生きがいを見出すために、学びあい語り合いながら時間を過ごす、大切な居場所となるようなサロンを運営していきたいと思っています。そしていずれは、参加者の皆さんが主体的に運営する場へと歩みを進めていきたいと思っています。



特定非営利活動法人 フードバンク横浜（横浜市）

理事長 加藤安昭 助成金額 242,000円

団体紹介

設立年月

2016年12月

団体の目的・活動内容

当団体はSDGs17課題のうち、福祉の提供、教育機会の提供、困窮者の救済、フードロス削減に取り組んでいます。

具体的にはひとり親食支援、路上生活者を含む生活困窮者への食支援、子ども学習塾、フードドライブに取り組んでいます。ひとり親食支援は横浜市内4会場毎月1回実施、路上生活困窮者への食支援は当団体自主活動では関内駅周辺で月1回、他団体への中間支援も実施、子ども学習塾は毎週2回、小学生・中学生対象に実施、フードドライブは当団体自主運営は毎月3会場、さらに企業との協働事業として実施しています。

活動歴

- ・ひとり親食支援は団体設立時から開始し、順次会場数や受け入れ人数を拡大
- ・子ども学習塾は2018年から開始
- ・フードドライブは設立時から開始し、順次会場数や企業との協働会場も拡大

団体情報

住所：横浜市神奈川区栄町16-1-304

TEL: 045-512-4965

メールアドレス: thanks:fb yokohama.jp

団体HP: <http://www.fbyokohama.jp>

★助成した事業・活動

「食」でつながる地域プラットフォーム事業

★内容

フードロス削減とひとり親世帯支援をタイムリーに結びつける仕組み

★助成対象

システム管理者人件費の一部、広報費など

助成をうけて...の思い・メッセージ

助成いただきありがとうございました。今回の助成は新規事業として取り組んでいる「フードロスマッチングサービス」システム事業(呼称フードステーション横浜)に対して応援いただいたものです。

この事業は大手企業の支援を得てアプリを開発しました。その切っ掛けは役員様に我々の活動を説明した課題を縷々説明したところ、素晴らしい活動なので、協力いただくことになりました。

この事業は小売店で毎日発生する破棄寸前の食品を、希望するひとり親家庭に無償提供するもので全てアプリを通じて情報提供する仕組みとしています。アプリ開発には1年を要しましたが、既に完成し、現在はテスト運用しながら、協力小売店開拓に努めているところです。

<子ども学習塾風景>



<ひとり親食支援風景>



<路上生活者食支援風景>



<フードドライブ>

(特非)フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会(横浜市)

理事長 成田 裕子 助成金額 500,000円

団体紹介

設立年月

2009年3月

団体の目的・活動内容

障害の有無に係わらず、全ての人が地域に溶け込んで当たり前の生活を送る地域社会を目指し、障害のある方とご家族に寄り添い、障害のある方の社会参加の推進と、スタッフ等の人材育成を行います。

○障害者の社会参加事業の支援

(空の旅、配慮食食事会、当事者の会、訪問型生涯学習支援)

○研修事業 (喀痰吸引等研修 摂食指導研修会 意思伝達支援勉強会)

○親の会の支援(事務委託)

活動歴

車いす空の旅(神奈川新聞厚生文化事業団と共催)

街のレストランで配慮食を食べよう

大人用ベッドの設置署名活動

訪問型生涯学習支援事業

神奈川県委託喀痰吸引等研修事業 等

団体情報

住所:横浜市神奈川区反町3-17-2

神奈川県社会福祉センター5階

TEL: 045-311-8742

メールアドレス:jimukyoku@kenshikyoku.jp

団体HP: <https://www.kenshikyoku.jp/>

★助成した事業・活動

「訪問カレッジEnjoyかながわ」

★内容

常時ケアが必要な重度障害の方を対象にした訪問型生涯学習支援

★助成対象

交通費

助成をうけて...の思い・メッセージ

24時間ケアが必要で外出が難しい方の「卒業後も学びたい」の想いに、応えたい一心で、2019年に訪問型の生涯学習支援事業を立ち上げました。以後4年間でカレッジで学ぶ受講生は20名を超え、学びは自己表現(実現)の一つであると日々感じています。訪問型の生涯学習を希望する方は県内各地に点在されていて、一人ひとりの学びのニーズは高まってきています。現在、学習支援員も20名を超えました。学習支援員の他に大学生や地域の方も加わり、一緒にご自宅を訪問する同行訪問の形も少しずつ増え、この事業を応援してくださる方の輪も広がり始めています。

私たちの活動は「学びの出前屋」です。学びのメニューは色々新しく工夫できますが、配達料(交通費)が工面できずに苦慮していました。皆さまからのご支援が、私たちの燃料になります。皆さまの志をエンジンにして、みんなの家に学びを届けます。本当にありがとうございました。



(特非)ウィメンズハウス・花みずき(川崎市)

理事長 富永 健太郎 助成金額 310,000円

団体紹介

設立年月

1999年12月

団体の目的・活動内容

女性を取り巻くさまざまな問題を抱えるすべての女性に対し、相談を受け、共にその問題を図ること等により、女性の人権を擁護し回復する支援に関する事業を行ない、安心して社会生活を営むことに寄与することを目的とする。その目的を達成するため、①男女共同参画社会の形成の促進を図る活動、②人権の擁護を図る活動、③福祉の増進を図る活動、に関わる特定非営利活動を行う。

活動歴

1999年、一人ひとりを大切にする市民活動として、女性の無料電話相談室と市内初の緊急女性保護を始める。2009年、自立支援のためのステップハウス、2016年、安心して地域と交流できる公開されたスペースを開設。年間360日24時間体制の女性支援を24年間継続中。

団体情報

住所: 川崎市登戸郵便局私書箱13号

TEL: 044-900-7781

メールアドレス: hanamizuki@joseisoudan.com

団体HP: <https://joseisoudan.com>

★助成した事業・活動

孤立を防ぎ、地域と繋がるコミュニティスペースの拡充 ～スペースらいらっく7年目の再出発～

★内容

コミュニティスペースにおける地域の居場所の提供、広報活動

★助成対象

諸謝金、広報費

助成をうけて...の思い・メッセージ

この度は助成いただき、ありがとうございます。地域と繋がりがりながら暮らしていく体験を重ね、社会からの孤立を防ぐことが課題と考え、今回の助成により地域住民が安心して立ち寄れる日中の居場所、相談できる場所として、コミュニティスペース再出発のために活用させていただきます。

2016年、地域に開かれたコミュニティスペースをオープンし、地域住民への認知や利用が広がりつつあったものの、コロナ禍で集客イベントや講座開催が不可能になり、利用者が激減したまま復活せず、有効活用できない状況が続いていました。

当地域は年齢に関係なく女性が地域と繋がることができる場所が無く、エリア的空白地域なので、人との交流が少なく、情報が伝わりにくい現状もあります。広報活動に努め、安心して社会や地域と繋がるきっかけ作り、孤立防止の一助となる活動ができるよう、努めてまいります。早速、地域住民が参加できるイベントを企画中です。



一般社団法人アマヤドリ(葉山町)

代表理事 菊池 操 助成金額 330,000円

団体紹介

設立年月

2020年12月

団体の目的・活動内容

既存の支援制度の狭間で孤立している18歳～29歳の保護・メンタルケアを実施し、就業・生きがい・社会参画できる機会を提供することで、健全育成を図ることを目的とする。

活動歴

- 1.サポート付きシェアハウス運営
(事業開始2021年2月、実績延べ22人)
- 2.アパート型ステップハウス運営
(事業開始2023年1月、実績:1人)
- 3.ビジネスホテル活用等による一時保護場所提供
(事業開始2021年1月、実績:7人、延べ9日)
- 4.相談支援・同行支援
(事業開始2020年12月、実績:99人・延べ約4100人・回)
- 5.居住支援(当団体以外の住居)
(事業開始2020年12月、実績:11人)

団体情報

団体HP: <https://www.amayadori-official.net>

★助成した事業・活動

支援の狭間で孤立困窮する若者のためのアパート型シェルター認知のための広報事業

★内容

公式サイトのリニューアル、リーフレット作成

★助成対象

広報費の一部

助成を受けて...の思い・メッセージ

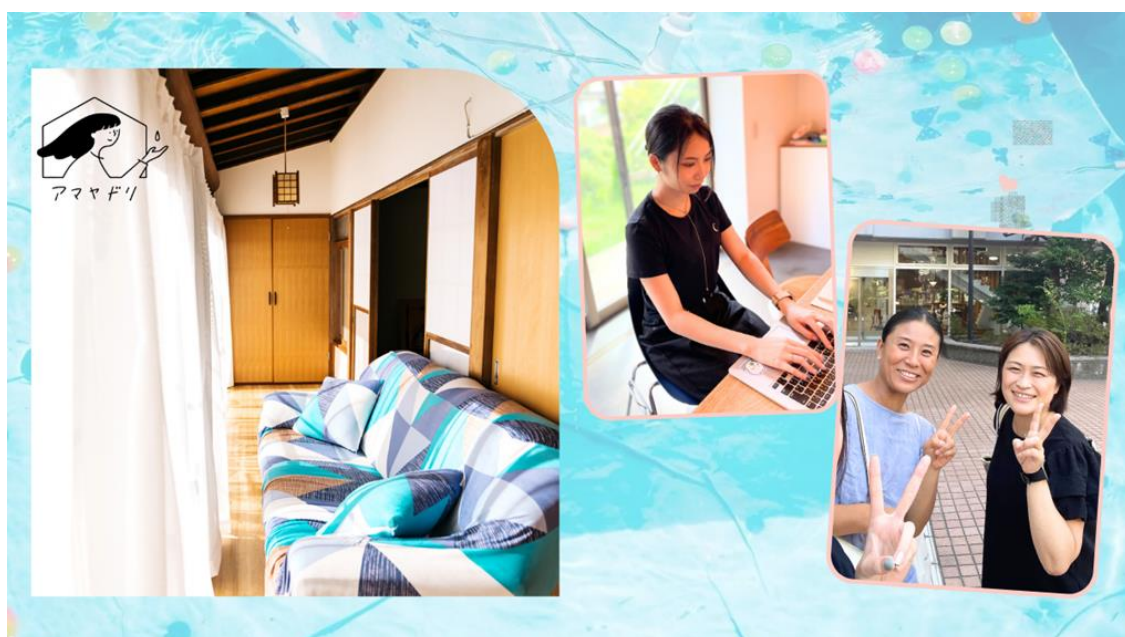
本団体は、代表の菊池が高校の養護教諭(保健室の先生)をしていた経歴があり、卒業生からの相談を受けるなかで、18歳以上の若者に対する支援の空白を痛感したことをきっかけに設立いたしました。

活動から約3年で、相談サポート「コレカラ」には団体ホームページ内の相談フォームから多くの相談が寄せられています。若者への住居提供も、当初から運営しているサポート付きシェアハウスに加えて、アパート型ステップハウスも新設し、2箇所を増えています。

さらに多くの若者に当団体の活動を知ってもらい、支援を届けていくために、この度はホームページとリーフレットの作成のための助成をお願いいたしました。

神奈川県若者すべてが自分が困った際に相談できる場所を知っている状態を目指して、必要としている方に伝わる広報活動にも尽力して参ります。

相談サポートと住居提供、どちらの活動も本助成により支えられていることで継続できており、心より感謝いたしております。この度は貴重な助成を頂戴し、誠にありがとうございました！



一般社団法人とえはたえ(横浜市)

代表理事 齋藤 浩司 助成金額 300,000円

団体紹介

設立年月

2023年3月

団体の目的・活動内容

- ・広く教育、文化の振興に資する事業を行い、教育及び文化の水準の向上及び発展に寄与することを目的とする。
- ・毎週土曜日朝7時から「GIGAおしゃべり交流会」を開催
- ・不登校児童生徒への学習支援(菊名、大倉山、大豆戸地区対象)
- ・教育関係社向けの研修企画、および研修講師。

活動歴

- ・「菊名和み塾」=不登校児童生徒への学習支援(週2回 現在2名参加)
- ・「ヨコヘン」=教育関係者対象の集合研修 横濱中華学院で多文化共生をテーマに実施

団体情報

住所:横浜市港北区菊名5-17-1

メールアドレス: akasikotaro@gmail.com

団体HP: <https://www.toehatae.com/>

★助成した事業・活動

福島県被災地研修

～中高生によるスタディツアー～

★内容

東日本大震災による福島の現状をふまえて、エネルギーと自分たちの未来について考える。

★助成対象

旅費交通費

助成を受けて...の思い・メッセージ

2011年の東日本大震災から12年が過ぎた。甚大な被害、未だに残る爪痕。しかし、我々の意識は「他人事」となりつつあるのではないか。そんな思いから、横浜市立鴨居中学校長時代、中学生と共に福島を訪問し、「見て、聞いて、知る、考える」研修を行ってきた。

令和元年に、生徒代表10名を派遣し、福島県南相馬市を始めとして、浪江町、双葉町、大熊町を、福島の中学生と一緒に巡り、ディスカッションをする機会を設けた。単なる、「見学」ではなく、「未来のエネルギー」について考える機会となった。

その後、令和2年、3年、4年とオンラインで研修を行ってきた。オンラインの強みを生かし、福島と横浜をつなぎ、リアルタイムで当事者の話を聞いた。また、教職員、保護者、地域の方も参加した。(この被災地研修は、学校単独として横浜市内唯一のもので、他自治体においてもあまり例をみない研修である。)これまでのつながりを生かし、令和5年度は本研修を、当法人が主体となり、市内中高生を対象にし、8月3～4日実施した。そして、令和6年度以降も、本研修を継続するため貴基金を申請した次第である。



財団を応援する「賛助会員」募集と「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い



賛助会員募集

公益財団法人かながわ生き生き市民基金は、助成事業（福祉たすけあい基金、エラベル）、研修・セミナー事業（フォーラム開催、報告書発行）、相談・助言事業（フードバンク支援業務受託、遺贈・生前寄付）、広報事業の4つの事業を行っています。かながわ生き生き市民基金では、当財団の活動を継続的に支援してくださる「賛助会員」を募集しています。賛助会費は財団の運営に活用します。賛助会員としてかながわ生き生き市民基金への応援をお願いします。

<会費>

個人会員 年会費（1口 1,000 円）1口以上

法人・団体会員 年会費（1口 10,000 円）1口以上

- 賛助会費は当財団への寄付となり、税制優遇処置の対象となります。
- 賛助会員として支援いただくと下記のような特典があります。

<会員特典>

- ・ 年次報告書の送付
- ・ 助成団体報告書「福祉たすけあい基金 BOOK」の送付
- ・ フォーラム報告書の送付
- ・ 当財団が企画開催するイベントへのご招待(フォーラム、贈呈式)

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 賛助会員規程

(目的)

第1条 この規程は、公益財団法人かながわ生き生き市民基金（以下この法人という）の事業の発展のために協力する賛助会員に関して、必要な事項を定めることを目的とする。

(資格)

第2条 この法人の目的に賛同し、その事業に協力しようとする個人又は法人は、会員になることができる。

(入会)

第3条 会員になろうとする者は、所定の入会申込書を提出しなければならない。

(会費)

第4条 会費は入会時に年会費を納入し、以降、年会費を毎年納入しなければならない。

2. 年会費は次のとおりとする。

- (1) 個人賛助会員 1口 1,000 円 1口以上
- (2) 法人・団体賛助会員 1口 10,000 円 1口以上

3. 会員が納入した年会費は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

(特典)

第5条 会員はこの法人が提供する次の情報・サービスを受け取ることができる。

- 1. 年次報告書 2. フォーラム報告書 3. 助成団体報告書

4. この法人が企画開催するイベントへの招待

(退会)

第6条 会員は退会届を代表理事に提出し、任意に退会することができる。

2. 会員は次の事由により資格を喪失する。

- (1) 法人の解散又は個人の死亡
- (2) 会員が正当な理由なく年会費を滞納し、かつ催告に応じないとき。

(会費の使途)

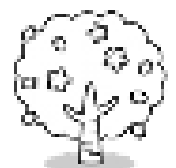
第7条 会費はこの法人の公益目的事業を推進するための活動費用（事業費・管理費）に使うものとする。

(改正)

第8条 この規程の改正は、代表理事が理事会の決議を経て行う。

附則

- 1. この規程の施行に関し、必要な事項は別に定める
- 2. この規程は 2018 年 8 月 11 日から施行する。



「福祉たすけあい基金」への寄付のお願い

神奈川県内で福祉たすけあいの市民活動支援へのご寄付をお願いします。
公益財団法人かながわ生き生き市民基金では、毎月 100 円の寄付(手続き上、年間分一括振込)をお願いしています。寄付金のうち 65%を「福祉たすけあい基金」の助成金として活用します。
また、35%は公益財団法人の運営費(管理費、広報費、市民活動のネットワーク費など)として使わせていただきます。現在 1 万人を超える方々が継続寄付に賛同されています。
年度の事業活動報告書は財団のホームページからご覧になれます。

「賛助会員・福祉たすけあい基金」への寄付申込方法

43 ページの申込用紙に必要事項をご記入いただき、
①郵送、②ファックス (045-620-9045)、③E-mail、のいずれかで当財団まで送付ください。
住所：222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6 階
FAX：045-620-9045 迄
E-mail：info@lively-citizens-fund.org

上記手続きが済みましたら以下の方法にてご入金をお願いいたします。

●郵便振替

記号番号 00250-0-72370

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

●銀行振込

中央労働金庫 新横浜支店(334) 普通 3603639

公益財団法人かながわ生き生き市民基金

●現金書留

送付先：〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-2-15 6F

公益財団法人かながわ生き生き市民基金 行

通信欄に「賛助会員」、
「福祉たすけあい基金」の
いずれかを記入ください。

税制優遇が受けられます

公益財団法人かながわ生き生き市民基金へのご寄付は、確定申告により以下の様に税制上の優遇措置を受けることができます。

所得税控除・・・・・・・・・・(公益法人への寄付総額 - 2,000 円) × 40%

県民税・市町村民税控除・・・・(同上) × 10%

例：横浜市在住の方が 10,000 円をご寄付された場合

(10,000 円 - 2,000 円) × 50% = 4,000 円が控除されます。

詳しくは財団ホームページか、お住まいの自治体・税務署でご確認ください。



賛助会員・福祉たすけあい基金寄付 申込書

貴財団の趣旨に賛同し、(賛助会員・福祉たすけあい基金寄付)に申し込みます。

※この用紙をファクス(045-620-9045)または郵便でお送りください。

※この用紙を当財団ホームページからダウンロードして、メール送付でも結構です。

申込年月日*	20 年 月 日		
申込種別*	☐ 賛助会員(個人)	☐ 賛助会員(法人・団体)	☐ 福祉たすけあい基金寄付
ご氏名* (法人/団体名)	(フリガナ) (法人・団体の場合、ご担当者:)		
ご住所*	〒		
TEL*		FAX	
Eメール			
ホームページや広報物へのお名前の掲載*	☐ 可	☐ 匿名希望	
メールマガジンや広報物の送付、イベント案内など*	☐ 必要	☐ メールマガジンのみ必要	☐ 不要
メッセージなど 自由にお書きください			

*印は必ずご記入ください。

☐ 賛助会員 (個人会費)	申込口数 ()口 <u>1 口 1,000 円以上、何口でも</u> ※会員の期間は、4 月～翌年 3 月となります。			
☐ 賛助会員 (法人・団体)	申込口数 ()口 <u>1 口 10,000 円以上、何口でも</u> ※会員の期間は、4 月～翌年 3 月となります。			
☐ 福祉たすけあい 基金への寄付	寄付金額 ()円 <u>1,200 円以上、いくらでも</u>			
領収書発行	※当財団への賛助会費・福祉たすけあい基金への寄付は寄付控除の対象となります。 ☐ 必要 ☐ 不要			
お支払い 方法	☐ 郵便振替 記号番号 00250-0-72370 名義: 公益時団法人かながわ生き活き市民基金	☐ ろうきん 新横浜支店(334) 普通 3603639	☐ 現金書留	☐ 手渡し

※いただいた個人情報は、領収書の発行、財団からの各種ご案内の送付以外の目的では一切使用致しません。

送付先 公益財団法人かながわ生き活き市民基金

※郵送、FAX でご提出ください。



公益財団法人

かながわ生き生き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund



発行：公益財団法人 かながわ生き生き市民基金

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜 2-2-15 パレアナビル 6F

Tel : 045-620-9044 Fax : 045-620-9045

Mail : info@lively-citizens-fund.org

URL : <https://www.lively-fund.sakura.ne.jp>

Facebook : <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日：2023 年 12 月 1 日